

説話・伝承学会 2013年度大会


インドネシア・バタック社会における  
ヤシ酒をめぐる習俗  
— 象徴的意味に焦点をあてて —

2014年4月27日(土) @ 静岡文化芸術大学

静岡文化芸術大学 文化政策学部

国際文化学科教授 池上 重弘

<http://wwwt.suac.ac.jp/~ikegami/>

HP 池上重弘研究室 

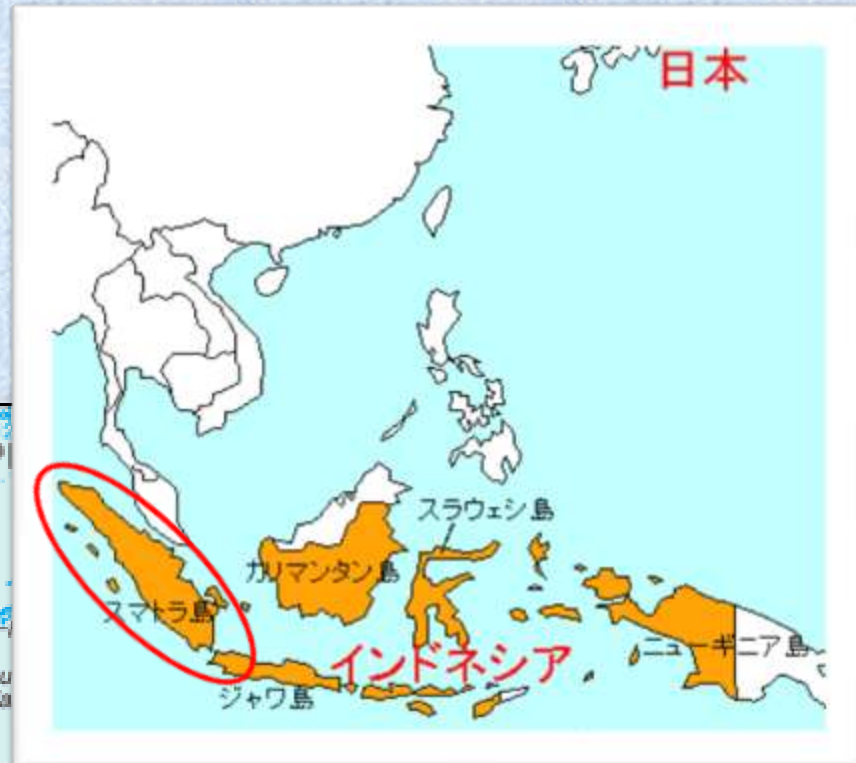
# 本日の講演の構成

はじめに

1. 生産と流通
2. 日常の消費
3. 授乳期初期の女性による利用
4. 儀礼における利用

むすび

# インドネシアの西部に 位置するスマトラ島



# 北スマトラのバタック社会

スマトラ島北部の北スマトラ地方、  
トバ湖周辺にバタック人が住む

標高900mのトバ湖、  
広さは琵琶湖の2倍。  
写真はトバ湖の南東部。  
高台部分が私の調査地。





# 調査地のバリゲ (Balige) 郡の様子

標高約1000mの高台に棚田が広がる。  
緑の海に浮かぶ島のような部分がhutaと呼ばれる集落。  
右の写真は郡都のバリゲの市街地。



# 住み込んで生活した集落

湖に面した集落に住み込む。  
バス・トイレなしの  
「究極のホームステイ」

トバ湖を背景に立つ  
(30歳になったばかりの頃)





# 北スマトラのバタック社会

村は船型屋根の伝統家屋が広場を挟んで向かい合う。  
広場は米を干したり、儀礼を行ったりする場。





# 調査村の子どもたち

集落のはずれには、墓地区画が広がる。



20c初頭のオランダ植民地時代、頭の上で手を回して反対の耳に手が届くと、小学校入学。





# 結婚式

新郎(中央)とその父親(その左)が赤いウロスを肩にかけている

新婦の両親から新郎新婦に対し、祝福の象徴として赤いウロスが与えられる



# 葬式

亡くなった女性の遺体に青いウロス。  
故人の夫(頭に白い巻物)や親族も青いウロスを身にまとう。





# バタック社会の特色

- 北スマトラ中央高地を故知とする
- 水稲、陸稲、水牛・豚・鶏、漁労、森林産物
- 今日ではインドネシア各地に
  - 人口は300～400万人
- 父系親族原理
  - 父系親族集団はマルガと言われる
  - マルガ＝ファミリーネーム

# 移住史概略

- 19C半ばまで、地理的要因により孤立
- 1860年代からキリスト教布教
  - ドイツ、ルター派のライン伝道教会
- それを後追いする形でオランダ支配が浸透
- 20C初頭からスマトラ東海岸部へ開拓移住
- 20C前半でも都市移住(教師、事務官、商人等)
- 1960年代以降は都市移住増加
  - 軍人、政治家、大学教授、専門職も輩出
  - 周流移住ではなく、家族帯同の一方向的移住



# 改葬儀礼

墓室から取り出した遺体を清める遺族たち。

黒いビニールシートを開いたとたん、紫のブラウスの女性(右)は「お母さん」と泣きながら、頭骨にすぎりついた。

清めた遺骨は再度、改葬墓の上段に安置される。



# かつての改葬墓

タツバク・ナ・ティツボを言われ、「高い盛り土」を意味する土を持った上に木を植えた墓



バトウ・ナ・ピルと言われ、「堅い石」を意味する石棺





# 伝統家屋を型どった改葬墓も多い

オランダ植民地時代の1920年代に建立されたモルタル塗りの改葬墓。正面に王冠が見える



水田の中に伝統家屋を型どった改葬墓が建ち並ぶ



# ある改葬墓の外観と内部

3世代の祖先を祀った改葬墓。  
上段の伝統家屋型の部分には掘り返された遺骨が安置される。  
右の写真は、下段の墓室の中。





# ある改葬儀礼

掘り返して清めた遺骨を、遺族が改葬墓に再安置する。  
その後、親族・姻族・村人等が村に集まり、盛大な改葬儀礼。



# バタック社会とヤシ酒

- キリスト教徒が多く、独自の飲酒文化
- 夜、男たちがヤシ酒飲み屋で飲む
- 客を歓待する飲物
- 産婦の飲物（発酵していない樹液）
- 通過儀礼の儀礼要素の一部
- 都市移住バタックにとって、アイデンティティの拠り所

しかしバタックのヤシ酒利用を体系的に論じた研究はなかった

# 講演の目的と方法

- トウアック(tuak)と呼ばれるヤシ酒について、生産と消費の全体を紹介
  - その上で儀礼的場面での利用について紹介
  - そこからヤシ酒の象徴的意味合いを考察
- 
- 1997年8月～10月にかけての2ヶ月間
  - 北スマトラ州のバリゲ郡とメダン、首都ジャカルタでの参与観察と聞き取り



# ヤシ酒の生産

- ヤシの花序や花軸、成長点等を切断
- そこからにじみ出る液を集めて発酵
- 海岸部ではココヤシ、山間部ではサトウヤシ
- 糖分の多い液を煮詰めると黒砂糖
- 自然の酵母を含むため、発酵してヤシ酒に
- 朝、液を集め、樹皮を入れて発酵を調整
- 夜、ヤシ酒を飲む（翌朝には酸味）



写真1 サトウヤシ (*Arenga pinnata*)



写真2 サトウヤシの幹と花序





写真3 トバ湖の湖面からL村へ続く急斜面  
ところどころにサトウヤシが群生している。





写真5 アガット (agat) と称されるナイフ



写真6 トゥヒル (tuhil) と称されるノミ



写真7 トゥヒル (左) とアガット (右) を持ったヤシ酒職人



写真8 バルバル・バルバル (balbal-balbal) と称される木槌





写真9 バルバル・バルバルで花軸を叩くヤシ酒職人  
ただし、叩いているのは古くなった花軸。

## スキル習得が必要

- ・花軸を見つける
- ・叩く加減
- ・発酵の調整



写真12 樹液を溜めるためにポリタンクをかける



写真10 アガットで花軸を切断する





写真13 溜まった樹液を別のポリタンクに移し替える



写真14 ラル（写真中央の樹皮）と採集された樹液



# ヤシ酒の消費1 故地の農村部



写真15 L村のクダイ（ヤシ酒飲み屋）



写真16 隣郡からやってきたヤシ酒の仲買人

故地の飲み屋は男の空間  
夕食後に集まる  
情報の結節点として機能

# ヤシ酒の消費2 移住先の都市



写真17 ジャカルタのラポ  
ラポ・ニ・トンドッタと記されている。



写真18 ジャカルタのラポのメニュー  
上から3行目に「B1のサクサン」と記されている。



## 都市では二極分化

- ・食堂(むしろビール)
- ・ヤシ酒飲み屋



写真19 食堂としての性格の強いジャカルタのラポ  
筆者(中央)の前にヤシ酒とサクサンが置かれている。



写真20 ヤシ酒飲み屋としての性格の強いメダンの簡素なラポ  
右のラポに集うのは若いベチャ引きたち。

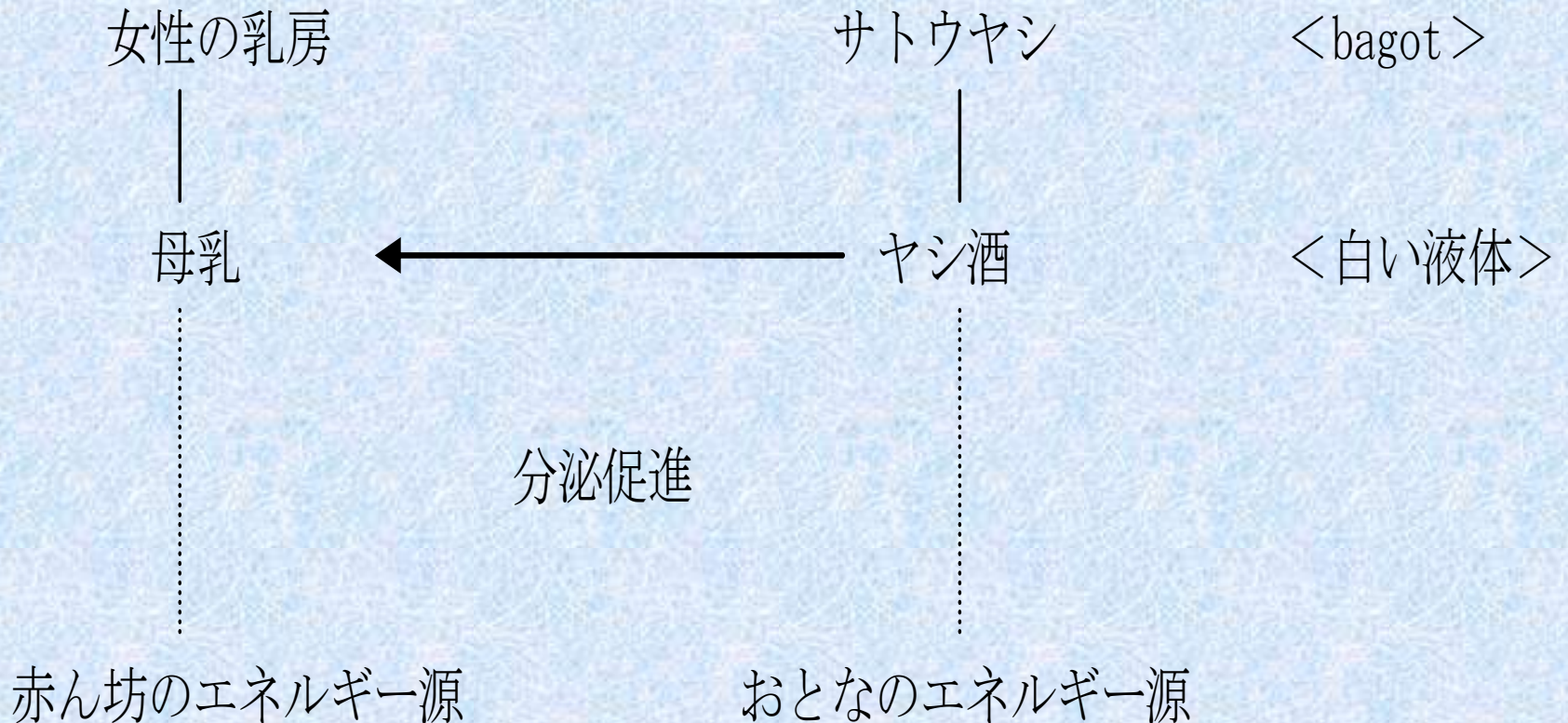
# 授乳初期のヤシ酒利用

- 出産後7日間ほど
- 発酵度の低い「甘いヤシ酒」
  - 血行促進、栄養補給
  - 母乳分泌促進
- 実際利用
  - 農村部でも全員ではない
  - 都市部でも売薬やジャムー（生薬）で代替





# ヤシ酒は母乳のメタファー（隠喩）



# サトウヤシとヤシ酒の 起源に関する説話

- サトウヤシは死んだ女性の生まれ変わりと  
する説話－2つのヴァージョン
  - － 貧しい家庭の娘
  - － 意図せぬ結婚



# 説話ver1 貧しい家庭の娘

- 父、母、兄、妹の貧しい4人家族
- 多大な負債を返済できず、債務奴隷の危機
- 娘は至高神に自分ができるところを問いかけた
- 雷に打たれ、身体がサトウヤシに
- 両親は畑にサトウヤシを見つけ悲嘆
- 両親の夢枕に娘、「花軸を叩いて樹液をとり、それを売れば負債返却」
- 樹液を売って負債返却、サトウヤシは枯れる

# 説話ver2 意図せぬ結婚

- 両親は娘に身体に障害を持つ男性との結婚を強制
- 娘の意に反し、男性側から多額の婚資を受け取った両親は強く圧力
- ゴンダン(伝統的打楽器アンサンブル)に合わせて踊りながら決断
- バルコニーから身を投げると身体は地中へ
- そこからサトウヤシが生えてきた
- サトウヤシの樹液は娘の涙



# サトウヤシとヤシ酒の 起源に関する説話

- サトウヤシは死んだ女性の生まれ変わりとする説話－2つのヴァージョン
  - － 貧しい家庭の娘
  - － 意図せぬ結婚
- 東南アジアに広く見られる死体化生神話
  - － 死んだ女性や女神の死体から穀物や植物が生まれてくるという説話は東南アジアに広く分布
  - － サトウヤシとヤシ酒の説話もその一類型

# 儀礼で用いるヤシ酒

- 祖霊や死者への供物(埋葬儀礼)
- 生きている人間にも(長寿儀礼)
- サトウヤシから採取したままの樹液
  - トウアック・タッカサン(tuak tangkasan)
  - タッカス(tangkas)とは「明るい、はっきりした」の意
  - 儀礼時のみ、この名称(授乳時は「甘い酒」)
- 「生」のヤシ酒
  - 混じりけのない「純粹性」
  - 元来の味の「明瞭性」



# 埋葬儀礼でのヤシ酒利用

- 対象は父系ラインの男の孫を持った死者＝あるべき死に方
- 墓上にオップ・オップという植物を植える
- そこにヤシ酒を注ぐ



写真 23 父の墓にオップ・オップを植える長男（中央）

# ウツパマ (umpama)

Ini on ma tuak tangkasan. (これはトウアック・タッカサンである。)  
Tangkas ma uju purba, (東の方向がタッカスであるように。)  
tangkasan ma uju angkola. (南の方向がタッカスであるように。)  
Tangkas ma hita maduma, (我々が繁栄することがタッカスであるように。)  
tangkasan ma hita mamora. (我々が裕福になることがタッカスであるように。)

- 2行目からの四行詩形式がウツパマ
- 前半の2行には実質的な意味はない
- 後半の2行で儀礼的言辞や格言的内容
- 将来の「繁栄」や「裕福さ」がタッカス(明瞭)であることを祈願
- ヤシ酒は豊穰性の象徴



# 長寿儀礼でのヤシ酒利用

- 老親への表敬の儀礼
  - 「生前葬」
- 一人ずつ老親に与える
  - ①米飯
  - ②豚肉料理
  - ③水
  - ④ヤシ酒
- ここでも豊穰性の象徴
- 老親からは忠告と訓戒



写真 24 マヌランギで老母にヤシ酒を飲ませる長男（中央）

# むすび

- 「純粹な」ヤシ酒は豊穰性を象徴する儀礼要素
  - 非日常的な飲物として
- 東南アジアの死体化生神話との関連
  - 女性の多産性と植物の豊穰性を結びつける概念
  - 女性の化身とされるサトウヤシから採取される樹液が豊穰性の象徴とされるのも、女性の多産性と通底する豊穰性の原理がヤシ酒において象徴的に表現されると考えられるから
- ただし今日では日常利用の比重が高まる
  - 都市部でのエスニック・アイデンティティの拠り所



ご清聴ありがとうございました。

静岡文化芸術大学 池上重弘